

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01629

研究課題名（和文）「授業研究」を軸としたコンピテンシー志向の教師教育に関する日独比較国際共同研究

研究課題名（英文）International and Cooperative Research on "Lesson Study"-based Teacher Education in Germany and Japan

研究代表者

吉田 成章 (Yoshida, Nariakira)

広島大学・人間社会科学研究科（教）・准教授

研究者番号：70514313

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「授業研究」によるコンピテンシー志向の教師教育のあり方を日独比較国際共同研究によって実施したものである。ドイツでは、コンピテンシー志向の教育改革が進行するなかで、「実証的な授業研究」が展開され、教師教育実践と授業研究実践とを往還する教育学研究・教授学研究が趨勢となっている。本研究では、ドイツの研究者との共同研究体制のもと、授業研究を軸とした教師教育のあり方を論じた。本研究の成果として、（1）継続的かつ体系的な共同研究プラットフォームの構築、（2）日独英の刊行物による授業研究に係る研究成果の公開、（3）授業研究方法論の明確化と授業研究アーカイブ構築の必要性の指摘、に至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義および社会的意義は、次の三点にまとめられる。第一に、日本の「授業研究」がLesson Studyとして世界的に展開される中で、それを積極的に受容してこなかったドイツの教育学研究・研究者とコミットした国際共同研究を展開した点である。第二に、日本の授業研究を教育実践研究としてのみの意義にとどめず、日本語・英語・ドイツ語による学術出版によってその意義と課題を発信したことである。第三に、研究代表者とカウンターパートナーのみの個人間共同研究に留まらず、研究室間および組織間・学会間の研究者交流を組織したことである。

研究成果の概要（英文）：This study is an international comparative research project between Japan and Germany on the theme of competency-based teacher education through Jugyo Kenkyu/ Lesson Study/ Unterrichtsforschung. In Germany, competency-based educational reforms and "empirical research" are developed. In this study, we investigated competency-based teacher education through Lesson Study under a joint research system with German researchers. The results of this research are (1) the establishment of a continuous and systematic joint research platform, (2) the publication of research results related to Lesson Study in Japanese, German, and English publications, and (3) the clarification of Lesson Study methodology and the pointing out of the need to establish a online Lesson Study archive.

研究分野：教育方法学

キーワード：授業研究 Lesson Study 教師教育 コンピテンシー ドイツ 国際共同研究

1. 研究開始当初の背景

TIMSS 調査や PISA 調査をはじめとした国際学力調査の結果が、各国の教育改革を促しつつもコンテンツベースからコンピテンシー(資質・能力)志向のカリキュラム改革が国際標準となりつつあることは周知の通りである(例えば、松尾知明(2015)『21世紀型スキルとは何か コンピテンシーに基づく教育改革の国際比較』明石書店、松下佳代(2010)編著『新しい<能力>は教育を変えるか』ミネルヴァ書房、など)。この間、そもそも「コンピテンシー」「資質・能力」をどのように捉え、カリキュラムの中にどのように取り入れ、それらを教育実践=授業づくりのなかでどのように育成していくのか、またそれをどのように評価するのが問われながら、わが国では学習指導要領の改訂が行われた。2017・2018年版学習指導要領の耳目とされた「資質・能力」は、すでに関連する学会においても中心のテーマとして取り上げられ(例えば、日本教育方法学会編(2017)『教育方法 46 学習指導要領の改訂に関する教育方法学的検討』図書文化参照)そのカリキュラム論および授業実践に与えるインパクトが議論の俎上に上がってきている。

こうした学校教育実践上の課題は果たして、教師の資質・能力の向上のあり方を巡る議論へと接続している。周知の通り、2017年には教職課程コアカリキュラムが策定され、教育職員免許法の改定に伴う教員養成制度が変革期に入っている。また教師教育においても、独立行政法人教職員支援機構の設置によって資質・能力ベースの教員研修の開発と実践が求められ、各教育委員会レベルおよび学校レベルでの教員研修にも変革が求められてきている(これらの学術的整理については日本教師教育学会編(2017)『教師教育研究ハンドブック』学文社を参照)。さらに、「教師教育者」という用語への着目とともに、これら教員養成および教師教育を担当する教師教育者の養成のあり方が模索されている(武田信子(2012)「教師教育実践への問い 教師教育者の専門性開発促進のために」日本教師教育学会編『日本教師教育学会年報』第21巻、8-18頁および丸山恭司・尾川満宏・森下真実編(2018)『教員養成を担う「先生の先生になる」ための学びとキャリア』溪水社などを参照)。すなわち問われているのは、教員養成・教師教育・教師教育者の養成という三つのレベルでの教師教育のあり方である。

この三つのレベルでの教師教育をつなぐ役割を担うものとして注目されてきているのが、「授業研究(Lesson Study)」である。わが国における授業研究は独自の教育文化・伝統として発展してきた経緯がある。すなわち、日本教育方法学会を中心とした教育方法学分野における中心的な研究課題である(日本教育方法学会編(2009)『日本の授業研究上・下』学文社、参照)と同時に、学校カリキュラムとの関係におけるカリキュラム開発・評価としての授業研究、教科教育学研究における教科の授業づくり、教師教育研究における教師の専門性開発、教育社会学や教育心理学における実証的・記述的・分析的な研究、特別支援教育研究といった関連する領域が相互に隣接する研究領域でもある。こうした蓄積を踏まえて日本の「授業研究」が“Lesson Study”として注目されるようになった学術的契機には、2007年の世界授業研究学会(World Association of Lesson Studies)の設立と国際ネットワークの構築をあげることができよう。

しかしながら、“Lesson Study”としての授業研究は学校ベースの教員の力量形成に重点が置かれ、学校における校内研修のあり方としての側面が強調されているきらいがある。むしろ、学校ベースの授業研究を促す啓発書(例えば、Stepanek, J. et.al.(2007): Leading Lesson Study. A Practical Guide for Teachers and Facilitators. Thousand Oaks: Corwin Press)の存在によって教職の専門性が高まっていく側面は否定できない。しかしながら、授業研究が教育学「研究」としていかに成立しうるかは、これから授業研究に取り組もうとするEUをはじめとした諸国における共通の課題として認識されている(cf. Dudley, P.(2015): How Lesson Study works and why it creates excellent learning and teaching. In: Dudley, P.(Ed.): Lesson Study. Professional learning for our time. London and New York: Routledge.)

ここで論点となる教育学「研究」としての授業研究のあり方をリードしているのが、ドイツにおける授業研究を巡る議論である。ドイツでは、「PISA ショック」を契機とした教育研究における「実証的な転回(empirische Wende)」を踏まえて、実証的な授業研究(empirische Unterrichtsforschung)の趨勢にある。2003年以降の「教育スタンダード(Bildungsstandards)」の開発とその後の学習指導要領改訂に伴って、「コンピテンシー(Kompetenz)」概念の導入がその検証可能性(Prüfbarkeit)の強調とともに学校カリキュラムの開発と授業づくりに影響を与えてきている。したがってドイツにおける授業研究は、その科学性と実証性に重点を置き、詳細な授業の発話記録の作成とその分析として蓄積されてきている(例えば Gruschka, A.(2013): Unterrichten-eine pädagogische Theorie auf empirischer Basis. Budrich など)。

こうした教育研究における実証性という課題は、世界的に見ても、またわが国においても「エビデンスに基づく」教育研究のあり方として着目されている課題である(例えば、日本教育学会編(2015)『教育学研究 特集:教育研究にとってのエビデンス』第82巻第2号など)。すなわち「授業研究」に即していえば、授業記録をはじめとしたエビデンスに基づく授業研究は、教育実践研究としての教育学研究たりうるかが喫緊の研究課題として議論の俎上に乗せられてきているのである(例えば、日本教育方法学会編(2018)『教育実践の継承と教育方法学の課題 教育実践研究のあり方を展望する』図書文化、参照)。

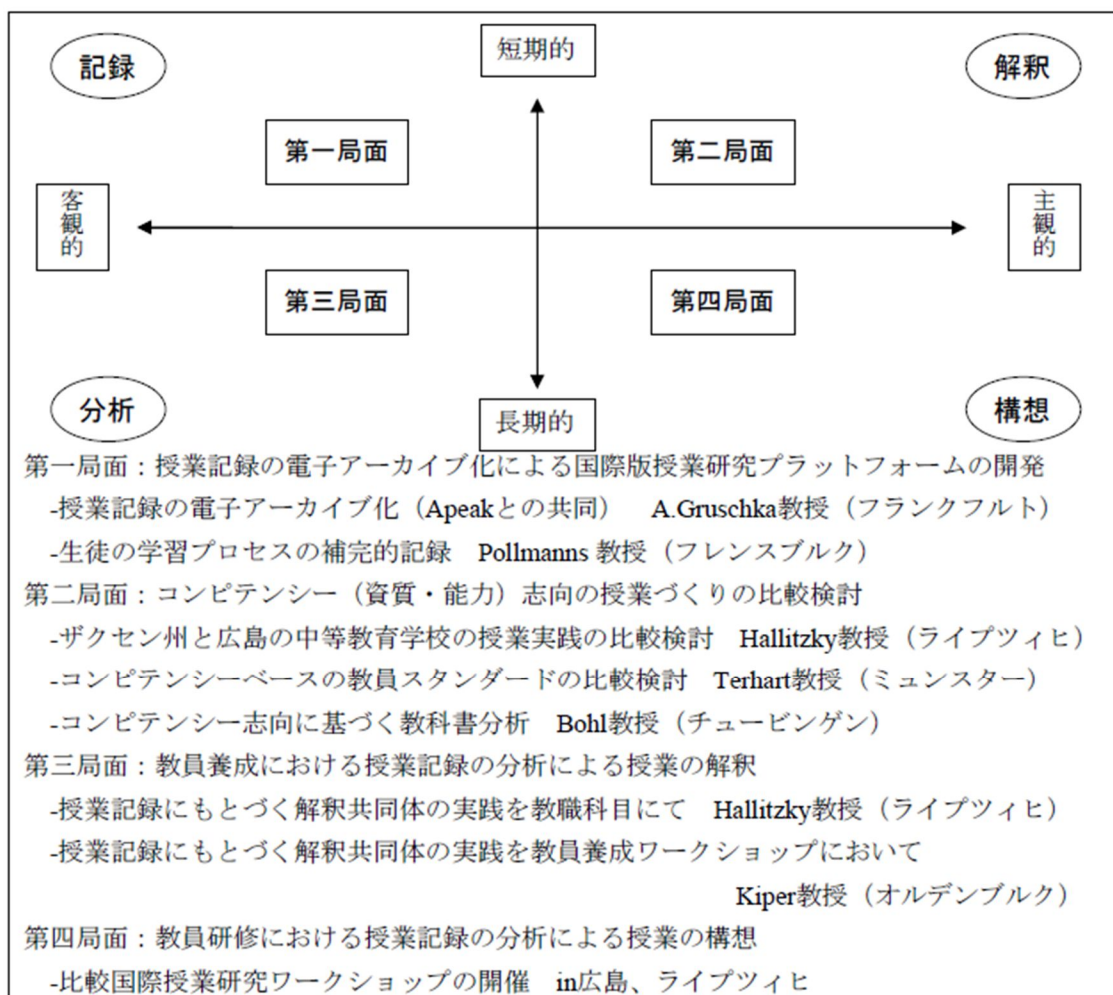
2. 研究の目的

こうした背景に基づき本研究では、授業の記録と解釈に基づく「授業研究」は教育学研究たりうるかであり、教育学研究としての「授業研究」はコンピテンシー志向の教師教育として成立しうるか、に本研究課題の核心をなす学術的な「問い」を設定した。

上記の学術的な「問い」に対して本研究では、「授業研究」によるコンピテンシー志向の教師教育のあり方を日独比較国際共同研究によって開発的に明らかにすることを目的とする。そのために、ドイツの複数の研究機関の研究者との共同研究体制のもとで、三つのレベルでの教師教育におけるコンピテンシー志向の「授業研究」のあり方を検討する。ここでいう「授業研究」とは、授業の記録と解釈による授業の分析と構想である。

3. 研究の方法

本研究では、授業の記録・分析・解釈・構想を巡って以下のような四つの局面を設定し、ドイツの研究者との共同研究により、日独の授業の記録・分析・解釈・構想をめぐる日独の授業研究・教師教育の特質と課題を明らかにする方法をとった。



4. 研究成果

本研究の成果は、次の三点に集約される。

第一に、継続的かつ体系的な共同研究プラットフォームを構築できた点である。とりわけ、ライプツィヒ大学のHallitzky教授の一般教授学研究室とは、個人間の共同研究に留まらず、研究室間の共同研究へと発展させることができた。また、その継続的かつ体系的な取組を推進するために、令和3・4年度日本学術振興会・二国間共同事業「『民主的な授業づくり』のための国際協働授業研究ネットワークの構築に関する研究」(研究代表者：吉田成章、Maria Hallitzky、課題番号：JSPSP120213506) および令和4~7(2022-2026)年度科学研究費補助金(国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)))「レッスン・スタディを基盤とした教師教育に関する日独共同研究」(研究代表者：吉田成章、課題番号：22KK0032) 令和4~7(2022-2026)年度科学研究費補助金(基盤研究(A))「業研究を軸とした教職の高度化に関する国際共同研究プラットフォームの構築」(研究代表者：吉田成章、課題番号：22H00080)の支援を得て、ライプツィヒ大学との共同研究体制を軸とした国際共同研究プラットフォームの構築に本研究を継続的に発展さ

せることができた。

第二に、日独英語によって研究成果を公開することができた点である。日本の授業研究を世界的に展開される Lesson Study の文脈で発信していくためには、日本語による刊行だけではなく英語等による研究成果の公開が欠かせない。本研究の推進により、英語による著書の刊行、英語論文の執筆、そしてドイツ語による著書の刊行を実施することができた。こうした多様な言語・文脈による研究成果の公開は、これからの日本の教育学研究の世界的発信という文脈だけではなく、若手研究者の養成という意味でも学術的・社会的意義は大きいものにとらえる。

第三に、授業研究方法論の明確化と授業研究アーカイブ構築の必要性の指摘を行った点である。本研究成果は、吉田(2019)において直接的に言及し、先述した基盤研究(A)の着想と共同研究の実施に直接的につながっている。すなわち、研究実践として日本の(学校)教育実践の文脈に埋め込まれている「授業研究」は、その教育学研究としての特質や研究方法論を精緻化する営みとは一定の距離をとってきた傾向がある。本研究では、社会学の研究方法論を援用しながら授業を研究するドイツの研究者との共同研究によって、その意義と課題を指摘するとともに、授業研究をテーマとする多くの研究者に対する研究プラットフォームの構築・提供の必要性と重要性を提起した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto	4. 巻 10(3)
2. 論文標題 Intercultural collaborative lesson study between Japan and Germany	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal for Lesson and Learning Studies	6. 最初と最後の頁 245-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/IJLLS-07-2020-0045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮本勇一・松田充・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・吉田成章	4. 巻 3
2. 論文標題 授業研究の日独共同比較研究 広島大学教育方法学研究室・ライプツィヒ大学一般教授学講座間の共同研究報告書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科教育方法学研究室編『教育方法学研究室紀要』	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Kazuhisa Ando, Yuka Fujiwara & Yue Ming	4. 巻 2
2. 論文標題 Characteristics and Challenges of Lesson Study and Lesson Analysis of Learning Group Formation (Gakushu Shudan)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin of the Graduate School of Humanity and Social Sciencies. Hiroshima University. Studies in Education	6. 最初と最後の頁 175-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/51626	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 吉田成章・松田充・宮本勇一・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・唐暁冬	4. 巻 67
2. 論文標題 教科書は「主体的・対話的で深い学び」をいかに求めているか 2019年度検定済み中学校教科書の分析を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 483-494
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・滝沢潤・安藤和久・川本吉太郎・橋本拓夢・藤原由佳・金原遼・武島千明・澤田百花・依龍太郎・田芯語・藤井冨佳・馬承昭・明月	4. 巻 19
2. 論文標題 高等学校を軸とした地域における保小中高大連携の可能性と課題 吉舎学区「資質・能力」の実践と吉舎学区学校運営協議会構想の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立日彰館高等学校編『研究紀要』	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・草原和博・木下博義・松宮奈賀子・川合紀宗・三好美織・小山正孝・影山和也・棚橋健治・川口広美・金鍾成・山元隆春・間瀬茂夫・永田良太・岩田昌太郎・井戸川豊・丸山恭司・三時眞貴子・森田愛子・桑山尚司	4. 巻 20
2. 論文標題 「コロナ」から学校教育をリデザインする学術知共創の可能性と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52067	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 金鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美	4. 巻 20
2. 論文標題 授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくり(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52073	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・滝沢潤・安藤和久・藤原由佳・澤田百花・依龍太郎・曾玉儒・藤井翔太・明月	4. 巻
2. 論文標題 教科における「探究」と総合における「探究」はいかに生きることの「探究」につながるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編『令和3年度広島県立吉田高等学校研究紀要』	6. 最初と最後の頁 86-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宮本勇一・松田充・安藤和久・川本吉太郎・橋本拓夢・藤原由佳・澤田百花・依龍太郎・明月・滝沢潤・吉田成章	4. 巻
2. 論文標題 オンラインを活用した特別活動の授業づくり 「大学を知ろう」企画の代替ではないオンラインと対面を組み合わせた体験学習の充実	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編 『令和3年度広島県立吉田高等学校研究紀要』	6. 最初と最後の頁 120-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 教育方法学の学問的固有性をいかに教えるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要 教育学研究	6. 最初と最後の頁 184-193頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50189	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・松田充・宗近秀夫・二宮諒・阿蘇真早子・藤野健太郎・三戸部由幸	4. 巻 第66巻
2. 論文標題 教科書はどのような「主体的・対話的で深い学び」を求めているか 2018年度検定済み小学校教科書の分析を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国四国教育学会編 『教育学研究紀要』(CD-ROM版)	6. 最初と最後の頁 114-125頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・松田充・安藤和久・阿蘇真早子・大西泰誠・金原遼・武島千明・藤原翔・三戸部由幸・澤田百花	4. 巻
2. 論文標題 探究に向かう生徒を育てる教科と総合の課題発見・解決学習推進プロジェクトの意義と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編 『平成30～令和2年度広島県立吉田高等学校「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」報告書』	6. 最初と最後の頁 77-104頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・佐藤雄一郎・安藤和久・阿蘇真早子・金原遼・澤田百花	4. 巻 第18号
2. 論文標題 高等学校における教科と総合をつなげる評価のあり方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島県立日彰館高等学校編『研究紀要』	6. 最初と最後の頁 47-50頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・草原和博・木下博義・松宮奈賀子・川合紀宗・三好美織・小山正孝・影山和也・棚橋健治・川口広美・金鍾成・山元隆春・間瀬茂夫・永田良太・岩田昌太郎・井戸川豊・丸山恭司・三時真貴子・森田愛子・桑山尚司	4. 巻 第19巻
2. 論文標題 「ポスト・コロナの学校教育」の提起する学術知共創の可能性と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 1-8頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50582	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 金鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美	4. 巻 第19巻
2. 論文標題 授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 33-40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50586	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 第68号
2. 論文標題 ドイツ・ライブツィヒにおける教員養成改革	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域)	6. 最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/48508	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 第86巻第4号
2. 論文標題 ドイツとの授業の比較検討による日本の授業研究の海外展開の可能性と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育学会編『教育学研究』	6. 最初と最後の頁 107-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11555/kyoiku.86.4_565	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田 愛子; 永田 良太; 米沢 崇; 松本 仁志; 竹下 俊治; 草原 和博; 間瀬 茂夫; 齊藤 一彦; 吉田 成章	4. 巻 第18巻
2. 論文標題 ポートフォリオ評価を軸とした教職課程の構造化(2): 実習系科目およびフィールドワーク等による「教育観の形成」の検討と効果検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 69-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/48934	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計10件(うち招待講演 1件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 吉田成章・松田充・宮本勇一・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・唐暁冬
2. 発表標題 教科書は「主体的・対話的で深い学び」をいかに求めているか 2019年度検定済み中学校教科書の分析を中心に
3. 学会等名 中国四国教育学会第73回大会自由研究発表「カリキュラム」部会、山口大学(オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida
2. 発表標題 From School-based Lesson Study to Lesson Study-based School Community: or From Teacher Educator to Community-based Curriculum Designer
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2021, Symposium "Teacher Educators' Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan", Macau and Hongkong (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuichi Miyamoto, Yuka Fujiwara, Kazuhisa Ando, Masako Aso, Yue Ming, Mitsuru Matsuda, Nariakira Yoshida
2. 発表標題 The Landscape of Researches on Lesson Study: An attempt to develop online research database of LS
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2021, Symposium “Teacher Educators’ Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan”, Macau and Hongkong (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田成章
2. 発表標題 教育方法学の学問的固有性をいかに教えるか
3. 学会等名 日本教育方法学会第56回大会課題研究、宮崎大学(オンライン)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田成章・松田充・宗近秀夫・二宮諒・阿蘇真早子・藤野健太郎・三戸部由幸
2. 発表標題 教科書はどのような「主体的・対話的で深い学び」を求めているか 2018年度検定済み小学校教科書の分析を中心に
3. 学会等名 中国四国教育学会第72回大会自由研究発表「カリキュラム」部会、広島大学(オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Kazuhisa Ando und Masako Aso
2. 発表標題 Jugyo Kenkyu in Hiroshima: Interprofessionelle Unterrichtsentwicklung, Panel 5: Gemeinsame Grenzen. Perspektiven auf Unterricht aus Hiroshima und Leipzig
3. 学会等名 Jahrestagung der Sektion Interkulturelle und International Vergleichende Erziehungswissenschaft (SIIVE) in der Deutschen Gesellschaft fuer Erziehungswissenschaft (DGfE), TU Dortmund (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Nariakira Yoshida, Yasushi Maruyama, Mitsuru Matsuda, Kazuhiro Kusahara, Shigeo Mase, Kazuya Kageyama, Shotaro Iwata, Yuichiro Sato, Miyuki Okamura, Maho Yodozawa, Yuichi Miyamoto, Aiko Hamamoto, Asuka Matsuura, Yu Yamamoto, Seigi Naganuma, Mayumi Kawamura
2 . 発表標題 Lesson Study-based Training of Teacher Educator: Case Study on Self-Study and Cooperative Lesson Study
3 . 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Maria Hallitzky, Christine Kieres, Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Asuka Matsuura, Kazuhisa Ando, Serina Sakurai, Yuka Fujiwara, Emi Kinoshita, Christian Herfter, Gereon Eulitz, Johanna Leicht, Karla Spendrin
2 . 発表標題 Bridging Gaps between Teachers and Researchers in Interprofessional and Intercultural Lesson Study
3 . 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nariakira Yoshida
2 . 発表標題 Qualitative Research in Education and Lesson Study ' s approach
3 . 学会等名 Qualitative Approaches to Teaching Research and Development in International Discourse: Disconcertment and Convergence (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nariakira Yoshida, Yuichi Miyamoto
2 . 発表標題 Lesson Studies in Japan: The students' learning opportunities in the focus of lesson analysis
3 . 学会等名 Qualitative Approaches to Teaching Research and Development in International Discourse: Disconcertment and Convergence (国際学会)
4 . 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Jongsung Kim, Nariakira Yoshida, Shotaro Iwata, & Hiromi Kawaguchi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 240
3. 書名 Lesson Study-based Teacher Education: The Potential of the Japanese Approach in Global Settings	

1. 著者名 広島大学教育ビジョン研究センター 草原和博・吉田成章編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 151
3. 書名 「コロナ」から学校教育をリデザインする 公教育としての学校を捉える視点	

1. 著者名 樋口直宏・吉田成章編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 211
3. 書名 教育方法と技術・教育課程	

1. 著者名 Maria Hallitzky, Christine Kieres, Emi Kinoshita, Nariakira Yoshida	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Klinkhardt	5. 総ページ数 138
3. 書名 Unterrichtsforschung und Unterrichtspraxis im Gespr�ach: Interkulturelle und interprofessionelle Perspektiven auf eine Unterrichtsstunde	

1. 著者名 深澤広明、吉田成章	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 192
3. 書名 学習集団づくりが育てる「学びに向かう力」 授業づくりと学級づくりの一体的改革	

1. 著者名 広島大学教育ビジョン研究センター 草原和博・吉田成章編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 182
3. 書名 ポスト・コロナの学校教育 教育者の応答と未来デザイン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------